

藤川について知ろう～そこから見つけた新たな提案～

愛知産業大学 経営学部総合経営学科 大坪愛子

Department of Comprehensive Management, Faculty of Business Administration
Aichi Sangyo University

Aiko OTSUBO

私が、この研究をしようと思ったきっかけは、岡崎市を盛り上げたい、観光客を増やしたいと思ったことだ。岡崎市の中心部は栄えているため、岡崎市の東部、特に母校・愛知産業大学の近くにある藤川宿に範囲を絞った。

1, 藤川町

藤川町は、愛知県岡崎市東部地区の町名である。また、丁番を持たない単独町名であり、47の小字が設置されている。

2, むらさき麦

むらさき麦は、岡崎市地域ブランド推進品目に推定された紫色の大麦である。いつの間にか消失していたが、藤川まちづくり協議会が多年にわたる努力の末に、松尾芭蕉が「ここも三河むらさき麦のかきつばた」と詠んだむらさき麦の畑を蘇らせた。

3, 藤川町をより活性化するための提案

(1) 藤川町を知ってもらえるように SNS を使って発信する。

若者や観光客をターゲットにし、インスタグラムで藤川のイベントや食べ物、お店などを投稿する。近年は情報収集に、SNS を活用している人が多いからである。

(2) むらさき麦を使った料理を学食に出す。

まずは、愛知産業大学の学生や職員に、藤川特産のむらさき麦を知ってもらうために学食で提供したいと考えた。また、ポスターなどで宣伝やむらさき麦とはどういうものなのか広く伝えたい。

(3) 旧東海道にある案内板や解説版などを新しくする。

愛知産業大学の造形学部の授業で取り入れてもらい、デザインから制作まで行うことで、地域の人と交流ができると考えた。また、歴史的情緒を残しつつ、若者や観光客の目に留まるようなデザインにできたらいいと思う。

(4) 大学祭で出店または展示的なものを行う。

例えば、藤川町のおすすめスポットやむらさき麦などの歴史について展示したり、むらさき麦を使った料理やお菓子、商品を販売したりするなどできたらいいと考えた。

4, まとめ

藤川を調べるにあたり岡崎市東部地域交流センターのむらさきかんや藤川まちづくり協議会の会長の鈴木様など多くの方に藤川について教えていただいた。また、むらさき麦を使った料理教室にも参加した。学生フォーラムを通して、藤川町をより盛り上げられるように、学生と地域の方が交流し、協力して藤川町をよくしていきたいと思う。

参考文献

- ・愛知県岡崎市公式観光サイト「道の駅「藤川宿」・岡崎おでかけナビ」

<https://okazaki-kanko.jp/feature/michinoeki.hujikawa-juku/top>

- ・藤川まちづくり協議会会長 鈴木忠『藤川まちづくりの歩みー活動 20 年史』平成

2017 年 引用頁数 (2-5 頁、64-74 頁)